

スマートホームの本格的な普及が始まるか

◆「暮らしのDXパビリオン」ではスマートホームの未来像を紹介

2025年10月、デジタル技術の総合展CEATECが開催された。住宅分野では、未来の暮らしを紹介する「暮らしのDXパビリオン」が新設され、スマートホーム事業を展開する住宅、家電量販店、通信インフラ関連の企業・団体が出展した。

スマートホームとは、ICT(情報通信技術)を活用し、住宅設備や家電を自動制御・遠隔操作できる住宅を指す。国内では、エネルギーの管理や最適化から始まった。ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)は、その一形態である。通信規格4Gの本格導入後、エアコンや照明などの生活家電がネットに常時接続可能となり、暮らしの利便性や快適性、安全性の向上に向けた活用が広がりつつある。

積水ハウスは、オフィシャルコンセプトブースを担当し、同社のスマートホームアプリ「PLATFORM HOUSE touch」を体験できるリビング空間を再現した。住宅の間取り図と連動したスマートフォンアプリで、玄関の施錠、エアコンや照明の遠隔操作のほか、窓の開閉・施錠状態や部屋の温湿度が確認できる。

また、居住者の同意を得て預かった同アプリ操作のデータを蓄積・解析し、一人ひとりに最適化されたサービスの提供を目指す「暮らし解析プラットフォーム」を紹介した。蓄積データを間取りや家族構成などの情報とひも付けて、AIで解析することで、家族それぞれの行動パターンや生活習慣が推定できる。その結果をもとに、専門知識を有する企業と連携した新サービスの提供を目指す。

第一弾として、24年12月からALSOKとの協業で防犯サービス「駆けつけホームセキュリティ」の提供を開始した。データの解析結果から、居住者の防犯意識と実際の行動習慣に乖離があることが明らかになり、居住者の防犯行動習慣を分析・スコア化し、行動習慣に応じて3段階のランクでセキュリティサービス料金変動する世界初のシステムサービスである。

家電量販店のエディオンは、異なるメーカーの家電を一元管理できる「エディオンスマートアプリ」を展示した。IoT家電を介し、家電販売後も顧客との関係を維持するビジネスモデルを拡大する。IoT家電で取得する動作・利用状況データは、高齢者の見守りなど地域・自治体との連携による社会貢献も想定する。

ヤマダHD傘下のヤマダホームズは、東京電力エナジーパートナーやLIXIL、NTT ExCパートナーなど12社と連携し、エネルギーからヘルスケアを横断的に捉えた住まいの未来像を展示した。例えば、NTT ExCパートナーは、リビングのテレビで体温・心拍数、動作を検知し、健康相談やエクササイズができるAIアバターによるヘルスケアトレーナーを出展した。

◆IoT機器の国際連携プログラムやセキュリティ認証制度の整備が進む

スマートホームの展開分野が広がり、多様なIoT機器の活用が求められるなか、異なるメーカー間の家電や設備機器を相互に接続・連携させる通信互換性が課題となっている。日本発のIoT機器通信規格ECHONET Liteを推進するエコーネットコンソーシアムは、Google、Amazonなどが参画する国際標準規格推進団体CSA(Connectivity Standards Alliance)のMatter規格と連携できるアプリケーションソフトウェア「Matter ECHONET Liteブリッジ」を披露した。これにより、海外で普及し始めたスマートホーム通信規格Matterと日本国内で普及している「ECHONET Lite」のスムーズな連携が可能になった。

近年、重要性が増す情報漏洩やサイバー攻撃などのセキュリティ対策として、IPA(情報処理推進機構)は、25年3月から運用開始したIoT製品向けセキュリティ認証制度「[JC-STAR](#)」(セキュリティ要件適合評価及びラベリング制度)を紹介した。IoT機器のセキュリティレベルを★1~4で表示し、数字が多いほどセキュリティ要件が高い。ラベル確認でセキュリティ対策されたIoT機器を選択できる。

◆社会環境の変化や国の制度がスマートホームの本格的な普及を後押しするか

総務省の情報通信白書(22年版)によると、インターネットに接続できるIoT機器であるスマート家電の世帯普及率は9.3%と1割以下だが、社会環境の変化や国の住宅関連制度が、本格的な普及を後押しする可能性がある。脱炭素化施策として、25年4月に開始された住宅の省エネ基準適合義務化により、ZEH住宅への注目が高まっている。また、単身高齢世帯が過去最多の900万世帯に達するなか、25年10月に改正住宅セーフティネット法施行により、IoT機器による見守り機能を装備した「居住サポート住宅」制度が新設された。技術的な基盤整備と社会的要請を受け、スマートホームの本格的な普及が始まるか注目される。 【新井佳美】